英語授業における音読活動の効果的指導法について
―クローズ音読の活用法―

奥羽　充規*・福元　広二**

An Effective Teaching Method for Cloze Reading in High School English Classes

OKUBA Atsunori,　FUKUMOTO Hiroji

キーワード：英語学習，音読，言語学習方法　クローズ音読，レシテーション
Key Words：English learning, oral reading, language learning method, cloze reading, recitation

0．はじめに

最近，英語学習の教材や英会話関連の教材に音読を利用したものが増えてきた。その現状だけをみると，音読に対する評価が大きく見直され，その結果として音読を利用した学習法の効果が声高に叫ばれているように思える。だが，音読の重要性についての言及は，今に始まったことではなく，國弘（1999）の只管朗読に見られるようにこれまでにも何人もの英語の達人たちが言及してきたことである。ただ，ここ最近の音読に関する声の高まりは，川島（2003）を始めとした脳科学という分野を通した音読と言語習得との関連性や，音読を通した脳のメカニズムの解明が進んだことにもその原因の一端があるのであろう。つまり，脳科学による脳のメカニズムの解明が音読に関する心理言語学的研究の根拠となる部分を多分に補っているのである。

しかしながら，実際の英語教育の現場においては，音読の重視の割合については必ずしもその研究成果が活かされてきているとは言えない。このことを裏付けるデータとして安木（2009）は，2007年ベネッセコーポレーションによる『教科に関するアンケート結果報告冊子』から進研模試の英語の指導状況アンケートの結果について言及している。そのアンケートの中において，時期別に重視する指導内容として音読について調べた結果，学年が上がる毎に音読指導を重視しない傾向にあるというのである。現行の大学受験の制度が大きく変わらない以上は授業形態やその方法論に関して大きな変化をもたらすことは難しいという一つのテーゼであろう。また，大学入試にリスニングテストが導入されたのが2006年度であったことを考えると，その翌年における授業の中での音読重視の割合の低さは多くの教師にとって音読は他の活動と比べて優先順位が低いことを示しているのである。

それでもなお音読への注目が集まっているのは，音読の効果に対してこれまで以上に期待をよせる多くの指導者の熱意があるからに違いない。鈴木（2009：10）にもあるように「「音読」こそが

*　鳥取県立鳥取東高等学校
**　鳥取大学地域学部地域文化学科

すべての基本」であり，「音読は外国語学習に必要不可欠」なのである。もちろん，音読といっても，その実施方法や手順は１つではなく，さまざまな種類があり，段階に応じた活動があるのである。しかしながら，残念なことにそれらの活動については，授業実践を研究にしたテーマの論文の中で効果的な方法の１つとして紹介されることはあっても，１つ１つの活動についてその具体的な方法や目的について検証している研究はこれまであまりなされていない。

本論文では，そのような現状への１つの試論として，さまざまな音読活動の中の１つとしてクローズ音読を取り上げ，その活用法と特徴について考察を行う。まずはこれまで言及されてきたクローズ音読の定義やとらえかたを確認し，その活用法や応用的実践法，加えて生徒に対する実験的な調査結果を下に，それをどのように実践することがその音読法として最適なのかをその活動手順や組み合わせを通して検証していきたい。

１．クローズ音読の定義

クローズ音読とはクローズテストの要領で，テキスト中に空欄（クローズ）を設けた教材を用意し，それを音読用のテキストとして使用して行う音読活動をここでは意味している。必ずしも，音読活動としての用語ではないが，音読活動の１つとしてここでは扱う。Cloze Reading（クローズリーディング）又は「でこぼこリーディング」と呼ばれることもある。門田（2007：245）は，空所補充音読（fill-in-the-blank-reading）として説明している。基本的な活動としては，音読する際に生徒は，空欄を補充しながら音読していくというものである。
安木（2009：14）では，クローズ音読を次のように説明している。

> 別名虫食い音読と呼ばれる活動である。本文の単語に空欄を設け，全員またはペアでその空欄を埋めながら音読する。空欄の作り方は等間隔に空欄にする方法，特定の品詞を空欄にする方法，重要な熟語や単語（新出のものなど）を含む部分を空欄にする方法等がある。

門田（2007：245）では，「暗証やスピーキングの橋渡しとなる練習」であると前置きをしたうえで，次のように説明している。

> 200語から300語など一定の分量の英文テキストを本文を一部ブランク（　）にしたものを見ながら音読するのですが，①内容語を１語ずつ数か所空所にする方法から，②空所を２～３語の語句にするやり方，③機械的に数語おき空所にするもの，④機能語に数語おきに空所にするもの，⑤機能語を１語または２語のかたまりずつ数か所空所にする方法，⑥機能語をすべて空所にするやり方などがあります。

溝畑（2006：63）においても同様に，「英文の一部を（　）で抜いたものを思いだしながら読む」という音読活動を取り上げているが，この活動はことばの産出の段階であり，レシテーション活動の一環として言及している。

いずれにせよ，クローズ音読は音読活動の最終的な目標の１つである暗誦を実施するための段階的な活動として位置づけられ，生徒の本文暗記の確認や暗誦用のスモールステップとしての用途が主なものであるといえよう。

2．クローズ音読を使った授業実践例

本節では，クローズ音読を使った授業実践例として安木（2010）と東谷（2009）を取り上げる。まずは安木（2010）から見ていこう。

2.1. 安木（2010）における実践例

安木（2010）はクローズ音読を本文の記憶を確認する活動として位置づけ，その実践方法を以下のように４つ紹介している。

【方法１】数語おきに機械的にクローズを作り音読する。インターネット上にソフトが公開してあり，自動的に作成することも可能である。

音読例文

I have a twenty-year-old sister. Her name is Kyoko. One day Kyoko and her friends were talking in a coffee shop. They were talking cheerfully. Suddenly their cakes on the table were taken away by an old lady. They didn't know what happened.

配布プリント

I have a twenty-year-old（　　）. Her name is Kyoko.（　　）day Kyoko and her（　　）were talking in a（　　）shop. They were talking（　　）. Suddenly their cakes on（　　）table were taken away（　　）an old lady. They（　　）know what happened.

―手順―

１．ペアを作り，じゃんけん。負けた方がまず穴を埋めながらパートナーに音読する。
２．片方が終了すれば交代。
３．両方が終了したら各自練習しておく。

【方法２】新出の単語や熟語，文法事項等を含む箇所をあける。例えば下記の音読英文の場合，cheerfullyが新出単語，take awayが新出熟語，whatが新出文法事項だとすると，下記のように配布プリントを配布する。

配布プリント

I have a twenty-year-old sister. Her name is Kyoko. One day Kyoko and her friends were talking in a coffee shop. They were talking（　　）. Suddenly their cakes on the table were（　　）（　　）by an old lady. They didn't know（　　）（　　）.

―手順―

１．穴を埋めながら各自が音読する。
２．教師が生徒をあて，順番に１文ずつ音読させる。

【方法３】特定の品詞（ここでは前置詞）を空欄にする。生徒は品詞の用法に目を向けるようになる。

配布プリント

I have a twenty-year-old sister. Her name is Kyoko. One day Kyoko and her friends were talking（　　）a coffee shop. They were talking cheerfully. Suddenly their cakes（　　）the table were taken away（　　）an old lady. They didn't know what happened.

―手順―

１．ペアでじゃんけんをし，勝った方が穴を埋めながらペアの相手に音読。
２．穴をあけてある単語は何と呼ばれる品詞か考えさせる。

【方法４】動詞を空欄にするのではなく原形を書いておく。生徒は正しい形にしながら音読する。

配布プリント

I（have）a twenty-year-old sister. Her name（ be ）Kyoko. One day Kyoko and her friends were（talk）in a coffee shop. They（talk）cheerfully. Suddenly their cakes on the table（take）away by an old lady. They didn't（know）what happened.

―手順―

１．ペアでじゃんけんをし，勝った方が単語を正しい形にしながらペアの前で音読していく。
２．（　）でくくってある単語は何と呼ばれる品詞か考えさせる。

ここで紹介されている４つの方法は，それぞれ（　）にしている単語の種類によって，目的の異なる本文再生を求めている。生徒にある種の負荷を与えるとともに，記憶の確認作業を行うという非常に高度なレベルの活動となっているが，それぞれをどの段階で，どれを選ぶのかについては不明瞭である。

2.2.　東谷（2009）における実践例

東谷（2009）では，「音読から暗唱・暗写，そして自己表現へ」という目標をもとに，その指導法についての具体的な手順を説明している。最初の段階の暗唱の中で，次の３つのスモールステップを用いた活動手順をまとめると以下のようになる。

ステップ①：チャンクシートの暗記
ステップ②：チャンクを括弧にした暗唱音読練習
ステップ③：キーワードからの本文再生

ステップ①では，生徒にチャンクシート（本文の重要語句や構文を中心に作成した資料）を暗記させる。最初に英語→日本語，日本語→英語というようにフレーズ暗記させる。生徒をたたせたり，ペア間でのタイム競争などをする。

チャンクシート例

	①英語を見て訳してみよう	②日本語から英語にしてみよう
1	in many ways	様々な方法で
2	armed conflicts	武力闘争
3	break out	（戦争などが）勃発する
4	set up…	…を設置する

ステップ②では，ステップ①のチャンクシートにある重要語句を括弧で抜いた暗唱練習資料を用いた音読練習を行う。ただし，この中でもスモールステップを踏んで，暗唱へと導くものとなっている。

Step1：MSF（h　s）people（i　）many（w　）. When armed（c　s）break（o　）, MSF sends its（v　s）to set（u　）clinic nearby.
Step2：MSF（　　）people（　　）many（　　）. When armed（　　）break（　　）, MSF sends its（　　）to set（　　）clinic nearby.
Step3：MSF（　　）people（　　）（　　）（　　）. （　　）（　　）（　　）break（　　）, MSF sends its（　　）（　　）（　　）clinic nearby.

ステップ③では，キーワードを使った暗唱であるが，名詞，動詞，形容詞，副詞などの内容語を下の［　］内の例のように，複数キーワードとして黒板に書き，それだけを見ながら生徒に英文を再生させるというものである。

［help　break　send　volunteers　set］

東谷の方法では，スモールステップを通した暗唱への橋渡しとしてのクローズ音読がステップ②として利用されている。実際の実践に関しての詳しい手順に関しては説明がなかったが，クローズ音読を生徒に円滑に実施するための細かな橋渡しも同様に入れている所にその特徴がある。その効果についての検証についてはここでは明らかにされてはいないが，時間的な制限を考えなければ非常に効果的な方法であると考えられる。

3．クローズ音読の応用活動（鳥取県立八頭高校におけるJE-Reading）

本節ではクローズ音読そのものの授業実践ではないが，それを応用した活動を紹介する。鳥取県立八頭高等学校は平成18年～平成20年の３年間，SEL-Hi指定校を受け，「英語に対して多様な学力，目的意識，興味・関心を持つ生徒が積極的に英語学習に取り組み，自分の考えや意見を英語で表現できるようになる授業プログラムの開発」を研究開発課題に挙げ，様々な研究及び授業実践を行なってきた。筆者もそのメンバーの一人として参加した。その研究実践活動にはいくつかの研究実践があったが，その内容は下に載せているように大きく３つに分けられている。

① 「考える力」を育成する活動を使いながら，表現力を段階的に高める工夫（教材作成，授

業実践，教材の適正さの検証）
② ライティング・スピーキングにおけるセンテンスレベルの正確さを確かめる工夫
③ 社会的な問題について「高度な議論」ができるコミュニケーション能力の育成

これらのうち，②の研究内容の中で，ライティングのセンテンスレベルの正確さを高める工夫を行うための実践として英語Ⅰ・Ⅱの教科書の英文を正確に再生することを目指した音読活動を行なっている。そして，その音読活動は以下にあるように確かに成果に現れたと報告しているのである。

「英語Ⅰ・Ⅱの授業における本文再生活動によって生徒のライティングの正確さを高めることが再確認できた」（『平成20年度八頭高等学校　研究開発実施報告書』p. 7）

また，上で言及した「本文再生」活動に関して，八頭高校の中で独自の「本文再生」の取り組みとしてJEリーディングと呼ばれる活動を実施している。以下に報告書からJEリーディングについて説明を引用する。

「JEリーディング：英文中に空欄を作り，空欄中にそれに相当する日本語を書いておき，空欄を埋めながら，音読し，書く（本文の再生）活動。教科書の本文など，意味や内容を理解した英文を使い，空欄を抜く単位はフレーズを基準とする。」
（『平成19年度八頭高等学校　研究開発実施報告書』p. 13）

次に，八頭高校１年生で使用したJEリーディング教材をここに載せる。

八頭高校JEリーディング用　例文

Lesson3 Part1
In Cambodia there was a civil war in the 1970s. During the war, many people were killed and（多くの学校が破壊されました）. Even now,（多くの子どもたちは学校に行くことができません）.
（衝撃を受けた日本人の学生がいました）by this situation. “Let’s build a school for them,” they thought. They（この目的のためにグループを設立しました）. However, they were just high school students. What could they do?
“Let’s（学校祭でお金を集める）,” they said. “Please take part in this project,” they asked all the students. The group（カンボジアに関する記事を学校新聞に載せた）. They also showed some movies of the civil war at school.

このJEリーディングの活動は，八頭高校の生徒に適した，クローズ音読のより効果的な活動と判断して考案したものであるが，留意することとして，この活動については，生徒に対してその活動を行う理由を説明するとともに，同時にその活動を積極的に行うための動機づけとして定期考査に出題する等の工夫をするなどの対策が円滑な実施には必要であったようである。これについてはその報告書において，次のように言及されている。

生徒が積極低に本文再生活動に取り組むように，英語本文の難易度やジャンルによって本文再生の負荷を変えたり，本文再生を求める部分を自己表現で使用する可能性の高いものに絞ったり，また本文再生が自己表現につながるという意識ずけをするために自己表現の場を設定したりするなど工夫を加えた。さらに本文再生活動の意義を繰り返し説くことも行ったが，生徒の目的意識は十分に高くならなかった。パターンプラクティスとして割り切って実施することも考える必要があるかもしれない。
（『平成20年度　八頭高等学校　研究開発実施報告書』p. 7）

4．クローズ音読の目的とその効果についての検証

平成22年の11月～12月にかけて，鳥取県内のＨ高校の３年生を対象にクローズリーディングを使った授業実践を行った。その中で，主に重要単語や重要熟語表現などを語又は語句単位でクローズにしたものを音読教材として利用した。教材としては，センター試験のリスニング問題から抜粋したものを利用している。

今回の検証においては，クローズリーディングの効果的な使用法について検証するため，その活動を入れる手順及び組み合わせを考慮し，主にシャドーイングの前後での使用によりどのような変化が生まれるのかについて調査した。調査方法としては，音読活動の中で，クローズリーディングを取り入れた一連の音読活動を授業の中で行い，その結果として生徒の英文又は英語表現に関する理解及び記憶の定着が深まったかどうかの小テストを実施した。

⑴　対　　象：Ｈ高校　３年生　100名（普通科文系３クラス）
⑵　内　　容：センター対策問題集　英語リスニング　第４問
⑶　語 彙 数：100語前後のもの
⑷　期　　間：平成22年11月～12月
⑸　音読手順：シャドーイングとクローズ音読の手順の違いで２種類を用意する。

手順１
①　リスニング（ＣＤを使った音声を使用して）
②　コーラス・リーディング（教師のモデルリーディングの後について）
③　パラレル・リーディング（教師と生徒が同時に）
④　ペア（パラレル）・リーディング（２人ずつのペアで同時読み）
⑤　バズ・リーディング（個人読み，２回音読）
⑥　リード・アンド・ルックアップ（個人で１回）
⑦　シャドーイング（マンブリングと合わせて２回）
⑧　クローズリーディング（全体で１回，個人で２回）

手順２
①　リスニング（ＣＤを使った音声を使用して）
②　コーラス・リーディング（教師のモデルリーディングの後について）
③　パラレル・リーディング（教師と生徒が同時に）

④　ペア・リーディング（２人ずつのペアで同時読み
⑤　バズ・リーディング（個人読み，２回音読）
⑥　リード・アンド・ルックアップ（個人で１回）
⑦　クローズリーディング（全体で１回，個人で２回）
⑧　シャドーイング（マンブリングと合わせて２回）

⑹　言語材料

— 原文 —

I know about a wonderful hotel. It's run by two old friends, and the prices are very reasonable. They offer many kinds of discounts. If you stay longer than three days, you'll get a 10% discount. If you tell your friends about the hotel and they stay there, then you'll get a 15% discount during your next stay. Remember this discount only applies starting with your second stay. I myself will get that discount if you mention that I introduced you to the hotel.

— 配布プリント —

I know about a wonderful hotel. It's（　　）by two old friends, and the prices are very（　　）. They offer many（　　）of discounts. If you stay longer（　　）three days, you'll get a 10%（　　）. If you tell your friends about the hotel and they stay there, then you'll get a 15% discount（　　）your next stay. Remember this discount only（　　）starting with your second stay. I（　　）will get that discount（　　）you mention that I introduced you to the（　　）.

この言語材料は，大学入試センター試験のリスニング対策問題のスクリプトを利用しているので，英語レベル自体は高校１・２年生でも比較的容易に内容を理解できるものである。また，音声データもリスニング，シャドーイング時に使用して，生徒に正確な発音の英文を聞かせた。英文内容についても，英文配布時に，合わせて日本語訳も生徒に配布し理解させている。クローズリーディング用の配布プリントに関しては，文章中の２文目から（　）を生徒が文の前後から比較的推測しやすい箇所を選んで入れている。

⑺　検証結果

生徒を50人ずつ２つのグループに分け，それぞれ授業内において手順１，手順２の音読活動を展開し，その後に本文の定着度を測るためにクローズプリントを配布して小テストを課した。なお，そのクローズプリントは最初に音読活動として使用したクローズリーディング用とはクローズの箇所が異なっている。以下にその小テストの再生率に関するデータを載せる。

表１から分かるとおり，手順①で実施したほうが，手順②よりもその再生率で約８％高い傾向が表れた。平均的な得点率なので，どちらの手順に関しても再生率が高い生徒もいれば，低い生徒もいることもあり，個人によっては必ずしもその有意性

表１　手順①と手順②による活動後の本文再生の得点率の違い

手順	得点率（%）
手順１	49
手順２	41

が異なることももちろんある。しかしながら，結果として手順①では平均として５割近い得点率を上げており，その数値上からはより効果的であることが分かる。これは，クローズ音読とシャドーイングでは，両者とも音読活動ではあっても，その目的とするところが異なっているため，最終的にどちらの活動を活動順番の終わりに持ってくるかによって最終的に達成されるものが異なったためであろうと推測する。音読の最中に，視覚による刺激でクローズを埋める作業を同時並行に行い，暗記を促すクローズ音読に比べ，シャドーイングは聴覚を通した即応的性質が高く，どうしてもその活動自体への適応で終始してしまう傾向がある。やはり，生徒が意識するしないに関わらず，音読の最終目的地をはっきりさせて活動を展開させておくことが，それぞれの授業者の目的にあった結果につながるということである。

しかしながら，ここで数値として表れているものは短期的な効果に関するものであるので，その点には留意しておかなくてはならない。というのも，実際授業展開という点においては，手順②は非常に展開がスムーズであったといえるのである。手順１，２ともにシャドーイング又はクローズリーディングに至る直前にリード・アンド・ルックアップがあるのであるが，この活動は比較的負荷が小さい初期の暗誦活動である。その後にクローズリーディングを行うとその流れが生徒には明確であり，活動間の繋がりという点においては手順２のほうが理にかなっている。また，シャドーイングは基本的に耳を通して脳が認知した英文を即興で再生するものであるので，リード･アンド･ルックアップやクローズリーディングとは性質の異なるところがある。したがって，ここでは２回連続して種類の異なる負荷の高い活動が続くことになり，生徒への負担が増加するのである。このように，数値上の結果には表れない面が存在していることもあり，この８％数値の差をどのように解釈するかに関しては議論の余地があるであろう。

５．おわりに

本論文では，クローズ音読の実践方法として２つの手順を紹介し，その効果についての検証を行った。クローズ音読については，教育現場においてすでにそれを使用した音読実践は行われており，その例も紹介されているが，その手順や活動の順序についての具体的な検証はあまりなされていない。今回の論文はそれに対する１つの試みである。手順１では，８つの音読活動に関する手順のうち，７番目にシャドーイング，８番目にクローズリーディングを実施，手順２では，逆に７番目にクローズリーディング，８番目にシャドーイングを実施した。その後，本文定着率を図る小テスト（クローズテスト）を実施したところ，結果として手順１のほうが８％高い結果となった。これにより，手順１のほうが効果があるようである。しかしながら，ここで示された結果はあくまで短期的な結果であり，長期的なものではない。授業の中での活動の繋がりや生徒の積極性という点を考慮にいれるとこの８％の差に関しては賛否が分かれるであろう。今後の複数回の実施をともなった検証と長期間的な検証が待たれるところである。しかしながら，音読活動の中でのクローズ音読にいたるまでの活動やその順序に関して，あくまで二択ながらどちらがより効果があるのかについて示すことができたことは，今後の音読研究や音読指導研究にとって有意義なことであったに違いない。

6．参考文献

門田修平（2007）『シャドーイングと音読の科学』コスモピア
門田修平・池村太一朗（編著）（2006）『英語語彙指導ハンドブック』大修館書店
川島隆太（2003）『脳を育て夢をかなえる』くもん出版
國弘正雄（1999）『國弘流　英語の話し方』たちばな出版
鈴木寿一（2009）「「音読」こそがすべての基本」『英語教育』11月号　大修館書店 pp. 10-12
東谷保裕（2009）「音読から暗唱・暗写，そして自己表現活動へ」『英語教育』11月号
大修館書店 pp. 20-22
溝畑保之（2006）「語彙の定着をはかるためにどのようにタスクを工夫したらよいか」 門田修平・池村太一朗（編著）（2006）『英語語彙指導ハンドブック』大修館書店
安木真一（2009）「バランスのよい英語力育成のための音読指導法とその順序」『英語教育』11月号
大修館書店 pp. 13-15
安木真一（2010）『英語力がぐんぐん身につく！驚異の音読指導法』明治図書

鳥取県立八頭高等学校（編）（2007）『平成19年度　鳥取県立八頭高等学校
スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究開発実施報告書』
鳥取県立八頭高等学校（編）（2008）『平成20年度　鳥取県立八頭高等学校
スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究開発実施報告書』

（2011年１月19日受付，2011年１月27日受理）